

【群馬県を取り巻く環境】

<p>人口減少社会の到来</p> <ul style="list-style-type: none"> 群馬県の人口は、2035年には2005年に比べて約16%減少し、約170万人に。(図1)
<p>厳しい財政状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 2008年度末の群馬県の県債残高(借金)は9,751億円(見込)で、県民一人当たり約48万円に。 急激な景気後退による企業業績等の悪化により、2009年度の県税収入は前年度比41.5億(約16%)減収。
<p>北関東自動車道の開通など高速道路網・新幹線網整備の進展(図2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北関東自動車道は、群馬・栃木・茨城3県の主要都市と国際港の常陸那珂港を結び、東京から放射状に伸びる関越道・東北道・常磐道とも接続。北関東地域に新たな経済圏の形成が可能に。
<p>地方分権の進展と道州制導入の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の特色を生かした行政運営、行財政改革の実施による簡素で効率的・効果的な行政体制確立の要請。 政府の「道州制ビジョン懇談会」は、2018年までの道州制への完全移行を提言。

【群馬県の特徴】

<p>恵まれた立地条件</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京都心から100km圏内 群馬県は、日本列島の中央部に位置し、北関東自動車道の開通により日本の東西南北の結節点(東北～中部・関西、太平洋～日本海)として、交通の要衝地・物流の拠点に。 自然災害が比較的少ない安全な県土
<p>豊かな自然・水・温泉と文化的資源</p> <ul style="list-style-type: none"> 尾瀬・利根川・上州の山々などの自然、おいしい水、伊香保・水上・草津温泉 など 世界遺産登録を目指す富岡製糸場と絹産業遺産群、日本のオーケストラで二番目に長い歴史を持つ群馬交響楽団 など
<p>ものづくり立県</p> <ul style="list-style-type: none"> 群馬県は、県内総生産額に占める製造業の割合が、32.8%で全国5位(2005年度県民経済計算より)であり、内陸の工業県として、ものづくりのウエイトが高い。 電気機器や輸送機器といった加工組立産業を支える基盤技術産業が集積しているのが特色。 企業立地件数は全国トップクラス(平成19年の県内工場立地件数は98件で全国2位)
<p>分散型の都市構造</p> <ul style="list-style-type: none"> 県庁所在地の人口集中度が全国41位(平成17年国勢調査より)と、突出した都市が無く、前橋市のほか中心都市(高崎、伊勢崎、太田など)が多極的に分布する分散型の県土構造。 人口千人当たりの自動車保有台数が全国1位の車社会になっており、郊外型のロードサイド店舗が発達。

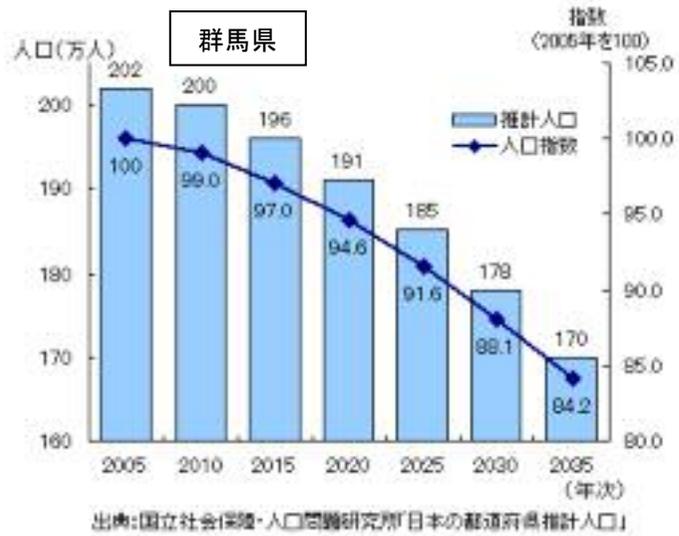
現状分析

<p>《機会》</p> <ul style="list-style-type: none"> 高速道路網・新幹線網整備の進展(北関東自動車道、北陸新幹線) 広域的な交流・物流の拡大 若者や団塊の世代によるふるさと回帰の動き 地方分権の進展、道州制導入の動き 	<p>《脅威》</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少社会 厳しい財政状況 国内外との競争の激化 格差の拡大 環境悪化(地球温暖化) 急激な景気・雇用情勢の悪化
<p>《本県の強み》</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然・水・温泉 東京から100km圏 災害の少ない安全な県土 個性豊かな地域文化(近代化遺産) ものづくり立県 多彩な農業 	<p>《本県の弱み》</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の衰退 公共交通がぜい弱 海外との接点不足(空港・港) 郊外への人口分散 耕作放棄地の拡大

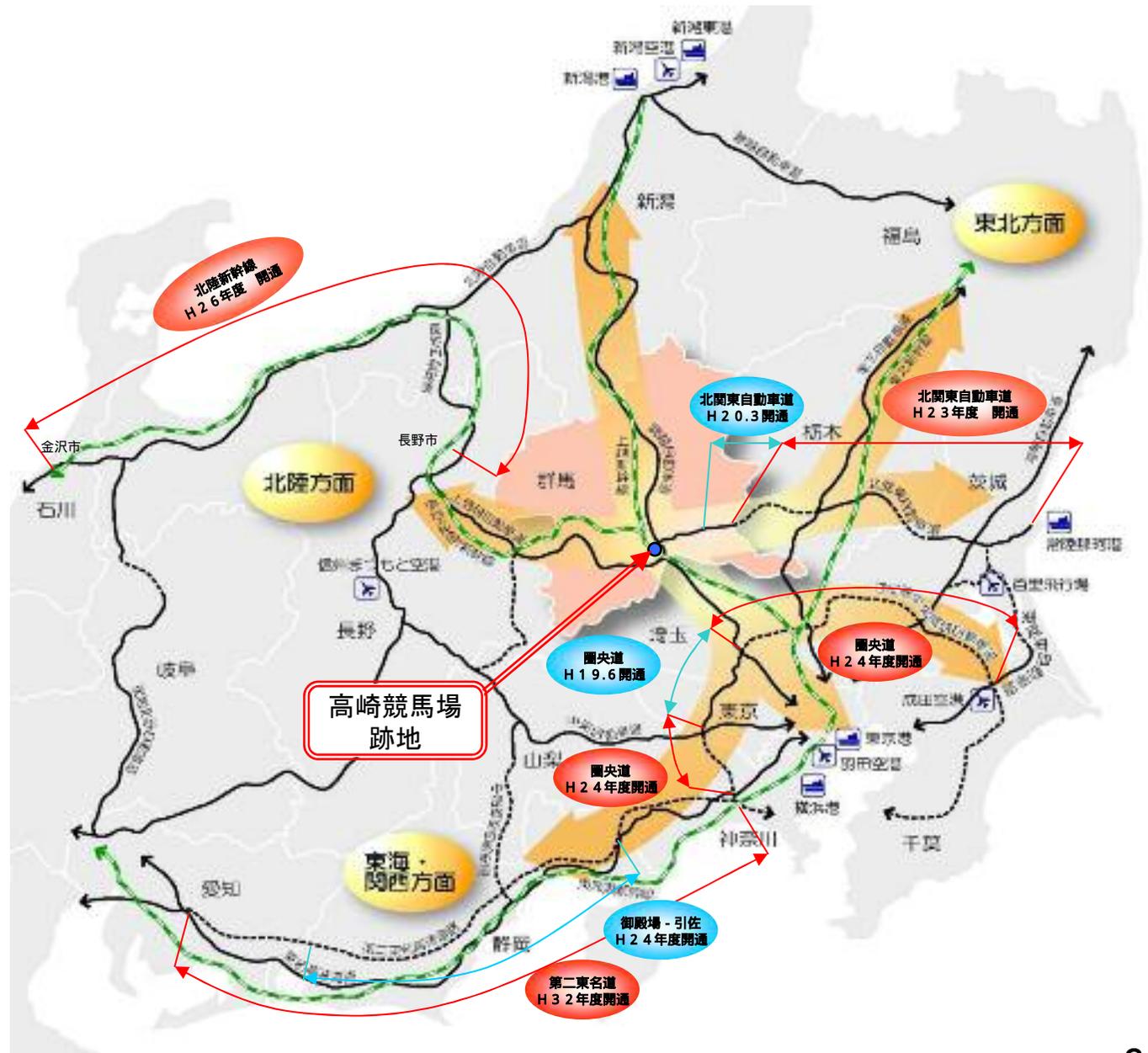
ぐんま新時代の県政運営方針 西部地域ビジョン(平成18年度～22年度)

- 地域の特性
 - 交通の拠点、群馬県の玄関口
- 地域の将来像
 - 県の玄関口、西上州の中心都市である高崎市においては、都市機能を一層高めることにより、・・・個性とにぎわいのあるまちを目指す。
- 重点施策「にぎわいのあるまちづくり」
 - 核となる高崎市などの都市機能充実や中心市街地の活性化対策

<図1:将来人口>



<図2: 高速道路網・新幹線網整備の進展>



高崎市第5次総合計画（平成20年度～平成29年度）

□将来都市像：「交流と創造～輝く高崎」

まちづくりの理念

人・もの・情報などの「交流」と、新たな芸術・文化や科学技術などの「創造」の促進により、経済を活性化させ、持続的に発展させていく「交流と創造のまちづくり」を積極的に展開

将来のまちの姿

群馬県のみならず北関東・信越地域を代表する拠点都市として東京と日本海を結ぶ政令指定都市を目指す。

まちづくりの基本戦略

- 高崎駅を中心としたまちづくり…高崎駅周辺にさらなる都市機能の集積を図り、多くの人々が集まり新しい都市文化や経済活動を生み出す、にぎわいと躍動感あふれるまちづくりを推進
- 文化の薫る品格のあるまちづくり…「音楽のある街」など市の特性を再認識し、様々な主体による芸術文化活動の育成支援等により、高崎ならではの魅力と品格のある都市文化を創造
- たくましい産業を育むまちづくり…交通拠点性や災害の少なさなどの優位性を活かした産業誘致や、産・官・学連携により、環境・医療・情報等の分野における新産業の創出を積極的に支援

高崎地域（都市拠点ゾーン）の施策展開

○都市拠点の形成とコンパクトシティの推進

- ・高崎駅周辺の市街地再開発事業等の都市基盤整備の推進
- ・拠点都市にふさわしい街並み整備と都市機能の集積
- ・スマートICを核とした新たな拠点地区の形成
- ・コンパクトなまちづくりの推進

○「創造の場」の整備

- ・多様な芸術文化活動に対応できる芸術・コンサートホール整備
- ・高崎操車場跡地周辺は、新産業創出や企業誘致可能なビジネスパーク整備
- ・高崎競馬場跡地については、県との連携により、群馬県の発展を牽引するような効果的な利活用推進

高崎市都市計画マスタープラン（素案）

□将来都市像：高崎から世界へ 魅力と存在感のある「交流創造都市」

高崎地域（旧高崎市）のまちづくりの方針

○地域の課題

- ・中心市街地は、マンション建設に伴い人口空洞化に歯止めがかかったが、高齢化率は一貫して上昇傾向にあるため、引き続きまちなか居住の推進と商業・業務機能の強化により、一層の賑わいと歩いて暮らせる利便性の高い中心市街地の実現が課題
- ・新幹線などの広域公共交通網の拠点性を活かし、広域的な交流拠点を実現する国際的交流機能の充実が必要
- ・産業集積を図るための用地が不足。一方、スマートICの整備により、新たな開発ポテンシャルの高まりが想定 等

○まちづくりの方針

- ・高崎駅を中心とした中心市街地は、政治、経済、教育、文化等の都市機能の集積を図り、一層の賑わいと魅力ある都市空間の形成と都心居住を促進 等
- ・まちづくりの目標は、「存在感のある交流発信拠点の形成」

地区別構想：高崎地域都心地区

○拠点の形成

- ・高崎駅西口周辺は商業機能の強化を、高崎駅東口周辺はコンベンション機能、オフィス機能、オフィスサービス機能等を整備

地区別構想：高崎地域東部地区

○土地利用の方針

（複合市街地）

- ・稲荷町や・岩押町・は、住宅や事務所等の土地利用の調和を図る。
- ・高崎競馬場跡地は、県との連携により、双方の発展に資する効果的な利活用を検討

（中心商業地）

- ・高崎駅東口周辺を交流拠点の商業・業務地に位置づけ、市街地再開発事業等による土地利用の高度化、会議場・ホテル等国際的交流機能の充実、それらにふさわしい商業・業務地の形成を図る。

高崎地域将来都市構造図

※高崎市都市計画マスタープラン(素案)より転写

<都心地区>



<東部地区>

